

ふるさとの地名編

新治

二子塚

双子の1人が眠る古墳伝説

かすみがうら市中央部に「新治」があります。「新治」は、中世文書をみると戦国期まで「荒張」と称されていました。「天の川」も「荒張川」でした。それが、近世江戸期に入ると「新治」と改称されました。

新治地区二子塚には、円墳4基からなる愛宕山古墳群があります。1号墳は、別名二子塚古墳とよばれ、この古墳の名称をとって地区名とされています。墳丘上には、神社が祀られています。小祠内部には、木製の男根があります。この神社は、子安様と呼ばれており、特に子供が授けられない方がお参りをして、この男根を持ち帰り枕元に置く風習があります。そして、子宝に恵まれた際に男根を倍にして奉納するといわれます。現在でも、噂を聞いた方々が近郷近在から参拝に來ています。10月の第3

現在のデータ 「二子塚」は、新治地区にある小字名で、集落を形成している。



日曜日には祭礼があり、きんぴら・里芋の煮物、また、その祭礼で集まったお賽銭を子どもたちに分配しています。

古墳名にもなった二子塚という名称には、次の伝説があります。八幡太郎とその后が奥州征伐でここを通った際、后が産気づいたとされます。そこで双子が誕生し、一人が亡くなって葬られたのが二子塚古墳ということ。実際は、古墳時代の墓ですので、伝説の時代とは数百年の誤差があります。さらに、二子塚古墳は円墳と登録されていますが当初は、二子塚の名称が示すように、2つの塚、つまり前方後円墳であった可能性を秘めています。



墳丘上の子安様

教育委員会



▼地域ボランティアによる土器の野焼き教室

▲近隣小中学校の授業研究会

豊かな心・豊かな学び 育成ネットワーク

～明日を担う子どもたちにより良く生きる力を～

図学校教育課 内線☎2400

社会は国際化、情報化、科学技術の発展など、変化が激しく、子どもたちを取り巻く環境もさまざまな問題を抱えています。このような状況の中、明日を担う子どもたちには「よりよく生きる力」を身につけることが重要です。「よりよく生きる力」は、「自分らしく生きる」「自立」「人との関わりの中で、程良い人間関係を築く」「共生を根幹として、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体をバランスよく育むことが大切です。かすみがうら市では、「自立し共生する力と豊かな心を育む学校教育の実現」を目指し、「集団で学ぶこと」のよさを生かすこと」をさまざまな教育活動において重視しています。また、家庭・地域と連携・協力しながら学びを豊かにする教育環境の整備に努め、「近隣複数校ネットワーク」・「かすみがうら共育ネットワーク」からなる「豊かな心・豊かな学び育成ネットワーク」づくりを推進しています。

近隣複数校ネットワーク

市内4中学校区をそれぞれ1つのエリアとして、通学区の異なる小中学校からなるネットワークづくりを進めています。

学校で学び(校風)

- 「おはよう」と元気に、校門出迎え
○基本的な生活習慣の徹底
○ルールとマナーの順守(法教育)
○朝の読書で1日スタート(言葉の力)
○授業でわくわく
→わかる喜び・意欲を生み出す研修
信頼される教師の力量
○地域に開く・地域を取り込む*P.C.A
→図書の手伝い/授業のサポート/奉仕活動

- 小小連携、小中連携、中学校教員の出前授業や複数教員による授業
○小中学校での学びの連続性や指導法の工夫、教員研修の合同実施

学校へ 急ぐ僕らに「おはよう」と 地域みんなの応援団 北中2年 服部瀧太郎さん

第9回「いばらき教育の日」推進協議会主催 標語 茨城県教育委員会教育長賞

子育て支援・底力・安全見守り

地域で育てる知恵・関心(土壌風土)

- 向こう3軒、両隣から
○みんな元気に笑顔であいさつ
○安全登下校見守り散歩
→ワンワンパトロール
○「お母さん応援」(家族・地域の支え)
○交互保育
○ぶらっと学校・子どもと交流
→コミュニティ/温かな目線(血の通う防犯カメラ)/豊かな心・知恵
○地域力発揮ボランティア
→読み聞かせ/スポーツ支援(得意の技で*P.C.A)

かすみがうら 共育ネットワーク

家庭・学校・地域の役割の自覚と連携を図るネットワークづくりを進めています。

早寝・早起き 朝ごはん

家庭でしつけ(家風)

- 「行ってらっしゃい」と笑顔の見送り
○あいさつ・返事・後片付け
→できたらほめて習慣化
○家族皆で学校へ
○してよいことと悪いことしっかり教える
→我が子も人の子も
○家族そろって「夕べの読書」「会話団楽」
→人づくり
○夕食づくりや片付けのお手伝い

家庭学習の習慣化



文芸ひろば

俳句

(国民文化祭「俳句大会」鈴木貞雄選)
豆柿の鈴生り天のよろこべり
(国民文化祭「俳句大会」今瀬剛一選)
滝音を山へ返して返り花
枯芦や湖に広がる帆引き舟
立冬の夕日しづかにかがやけり
日の光たつぷり纏ひりんご熟る
岩を打つ音ざわめきて冬の滝
晩秋を彩る滝の水豊か
小春日のチャペルに誓ふふたり美し
鳴き龍に拍子木びびく秋の空

短歌

いつも来る暑中見舞のどどかざり辿りては湧く巡る月日よ
水色の自転車走らす七歳児木犀匂う今日誕生日
故郷の子や孫たちも訪れて輪になり踊る施設の夕べ
開門を小舟一艘くぐりゆく西陽の中を水肌を覗く
追憶にこころ委ねる独り居の玻璃戸を叩き通り雨過ぐ
那珂川の清けき流れふたところ渦まく水面は魚遊びいるらむ
墓石に向ひ教へを乞ふ吾に亡父の声かやひぐらしの鳴く
古稀過ぎて鉄持つ我の生業を羨ましがる人哀れがる人

中島良平(稲吉東)
中根美子(下土田)
橋本とし(粟田)
的場登志子(上土田)
小貴弘子(牛渡)
小室貞江(西成井)
小室和則(西成井)
菅谷啄子(柏崎)

萩原初枝(上土田)
大塚隼人(新治)
桜井筑蛙(中志筑)
榊原清志(稲吉)
石塚文子(牛渡上郷)
小松崎正栄(戸崎)
車田きみ(天和田)
松葉ふみ(内加茂)
いいだいお(上稲吉)

* P.C.A = Parents & Citizen Action 親と市民の熱い行動のこと